

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 前兆終息待ち 前兆終息確認後、発生日を計算 (6/27を含めそれ以前の発生は否定可)

2008年07月02日から出現、約8年と云う  
本観測歴上最長継続前兆No.1778前兆の続報。

右図上は本年4月中旬以降～現在迄のNo.1778前兆の前兆出現状況図です。06月15.5日に極大が認識され、現在は第17ステージです。

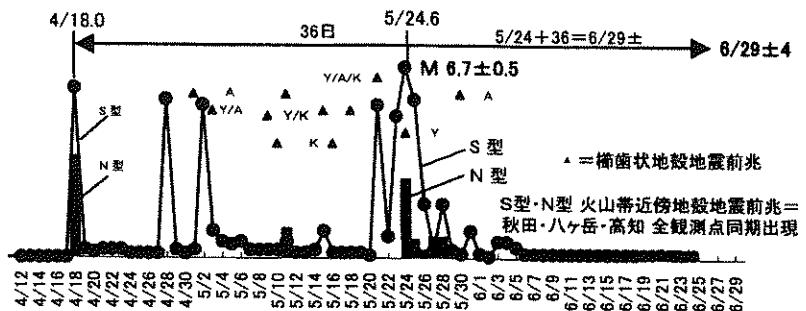
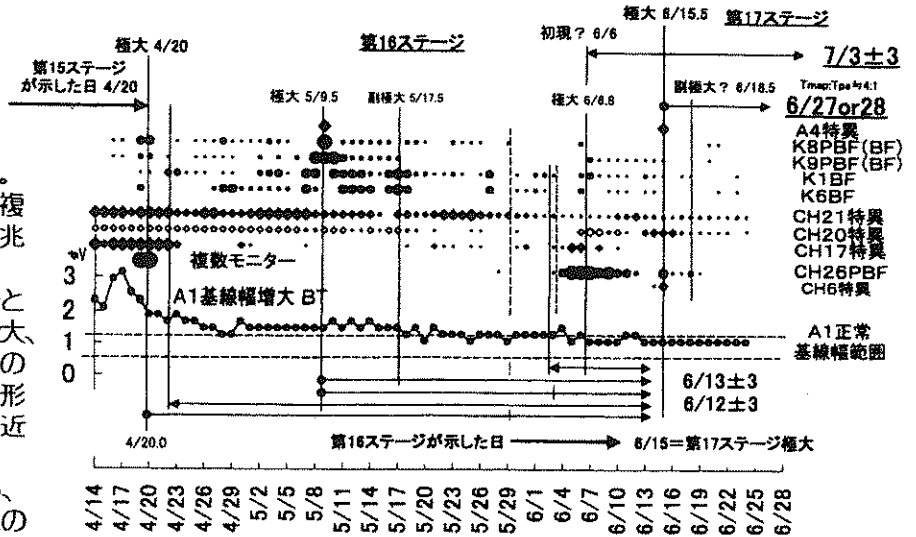
6/15.5極大に対する初現は、前行-前兆と重複して認識できません。従って、現在出現中の前兆終息を観測して、計算することになります。

ただ、前兆終息前に推定できることはないかと云うことで、前情報に記したとおり6/15.5主極大、6/18.5副極大の可能性も考えた次第です。今回の主極大は緩やかで、副極大は鋭い形のピークを形成していますので、経験則からはTmap:Tps=4:1近似比率となっている可能性があります。

平均=3.7:1で、3:1の過去例があることから、4.4:1程度までは誤差範囲がある可能性有。この主副極大認識が仮に正しい場合は、06月28日±、誤差含め06月29日迄は可能性が否定できません。6/25迄に前兆終息が認められない場合は、前述の主・副極大の関係とはなっていないこととなります。この場合は前兆終息を待つ以外ありませんが、前行-の極大が初現と云う過去例はあり得ますので第16ステージの極大、6/8を初現とした場合は、右上図のとおり 7月03日±3 が計算できます。

右図下は、No.1778第16ステージと同じ時期に出現した「火山帯近傍地殻地震前兆」の出現状況図です。通常地震前兆とは異なり、経験則も同じではありません。

- ①初現～極大：極大～発生=2:1の群発経験則が、
  - ②初現～極大：極大～発生=1:1の関係の過去例はあります。既に①はあり得ませんが、②の場合では6月29日±が示唆されます。誤差は不明。一応間隔日数の10%としました。
- 前兆は、K1, K6に6/23に微弱BF, CH20微弱。CH21は昨日正常基



線を短時間記録しましたが、現在は電圧値も低く、変動もあり、特異状態が継続中です。右は各終息時期の場合の参考推定日。以降の可能性も有。

- 6/26朝迄に終息の場合⇒6/29
- 6/26に終息の場合⇒6/30
- 6/27に終息の場合⇒7/01
- 6/28朝迄に終息の場合⇒7/02
- 6/29夜迄に終息の場合⇒7/03

- ◆推定領域: 右図
  - ・大枠推定領域=点線領域内
  - ・推定領域 =太線領域内
  - ・参考推定領域=斜線領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5  
(参考: 火山帯近傍地殻地震前兆=M6.7 ± 0.5を示す)
- ◆推定時期: 実際の前兆終息観測時点で計算予定  
(現状、6月29日以降～7月初旬迄の可能性考え易い)  
(7月初旬迄に前兆終息が認められない場合は再考予定)



- ◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3) ※上図は最も考えやすい前兆出現影響局から求めた推定領域(太線内領域)です。可能性低いですが、影響局誤認の場合は全く異なる領域となります。仮に別の領域での発生となった場合は陳謝致します。
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震

前兆終息を確認する前に様々な可能性を考えましたが間違っている可能性も有。実際の前兆終息を確認した時点でご報告致します。前兆が完全に終息した場合は発生日となりますが、前兆継続の場合は極大が出現する可能性も有。6月末～7月初旬の変化に注意して観測し、続報で報告致します。